

元・気・に・な・る・情・報・誌
よみつこ

月刊

Yomi

NARA + YAMASHIRO + IGA



yomiつこ
クーポン付
39店

10

Vol.250
OCTOBER 2022

鼻腔を抜ける匂の香りを楽しむ!

匂蕎麦

13店

「睡眠負債」拡大中!!

“いびき”は
体の危険信号

焼鳥

自然と暮らす 株式会社トモイ/伴井 比呂志さん 祐亮さん
川西町商工会/吉岡 清訓さん

2022円の旅 レトロ看板を探す旅

新日本妖怪紀行 腰折れ地蔵と狼石

BOZE数珠つなぎ 興善寺/森田 康友 師

伊賀もん 大屋戸モータース/長谷川 忠司さん





「藤原宮跡のコスモス」

撮影場所／藤原宮跡（檀原市）

📷 撮影者：笠井 忠さん

菜の花、桜、ハス、コスモスなど、四季にわたって楽しめる「藤原宮跡」。10月には、約300万本のコスモスが一面に咲き誇ります。正面には大和三山の畝傍山、右側奥には二上山を望む、絶景のコスモス畑です。

目次フォト 大募集！

yomiっこ「巻頭ページ」にあなたの写真を掲載!!
奈良の風景や伝統行事、イベントなど、
あなたのお気に入りの写真を毎月募集します。

12月を感じられる1枚を募集 締め切り:10月15日

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④写真のタイトル ⑤説明文 ⑥撮影地
を明記の上、画像をメール (info@ynl.co.jp) に送付ください。

*応募作品の中から編集部での審査の上、掲載を決定します。
Instagramの「#ならっこぐらし」でも応募できます。



2022.10月号 vol.250

本誌掲載内容は9月6日現在の情報です。

「新型コロナウイルス感染症」の影響で、店舗の営業時間やイベント等の開催が変更になる場合があります。詳細は直接ご確認ください。

SHOP

14... SHOP☆SHOP

MAN

02... 自然と暮らす

株式会社トモイ／伴井 比呂志さん 祐亮さん
川西町商工会／吉岡 清訓さん

18... BOZE数珠つなぎ 興善寺／森田 康友師

REGULARS 連載記事

16... 西の京病院 メディカル最前線！

17... トドの毒舌

20... 新日本妖怪紀行

22... タウンニュース

24... スポーツ大好き

「ブルーウィングス奈良」 「桜井南コンドル」

26... 読者のお便りFREE TALK&ちさとの星占い

28... クロスワードパズル&まめちしき

29... インフォメーション

「MUSEUM」 「ART」 「PLAY」 「EVENT」

34... 2022円の旅 レトロ看板を探す旅

36... 伊賀もん 大屋戸モータース／長谷川 忠司さん

38... 生活向上委員会

41... 美しいおもてなし

42... プレゼント

43... かわいいな

44... こちら編集部

04

鼻腔を抜ける匂いの香りを楽しむ！

旬蕎麦

06

「睡眠負債」拡大中!!

“いびき”は体の危険信号

10

焼き鳥 [13店]

45

毎月使ってね！

yomiっこクーポン！



永代供養塔・位牌壇 9/23(金・祝) 秋の彼岸会 (オンライン配信)
※生前予約可・宗旨・宗派不問 ※檀家制度はとっていません

光明山
阿弥陀寺
〒631-0027 奈良市学園南1丁目2826-1
☎0742-45-2410
みねのてら 検索



株式会社 読売奈良ライフ

<https://ynl.co.jp>



Narakko

<https://narakko.jp>

奈良の総合情報サイト 毎月25日デジタル
パンフレット配信!

表紙写真／そば処 二条、くちばしstation

本誌に掲載している価格表示は、原則的に税込みです(特に明示あるものを除く)

貝ボタンの製造工程



①ブランク
以前は原貝を直接輸入し日本でくり抜いていたが、近年は現地でくり抜いたもの(ブランク)を輸入している



②摺り場
回転している砥石で平らにする作業



③挽き場
ボタンの表面に膨らみや溝などの型を付ける工程



↑手挽き
ボタンの型付け作業は、通常15mmまでのものは機械で、それ以上のものは職人による「手挽き」で行う



④穴あけ ボタンに穴をあける工程。細い穴や間隔の狭い穴などデザイン性もさまざま



⑤化車 ボタンのカドに丸みをつけ、小割や筋を取る工程



⑥つや出し
テッポウと呼ばれる桶の中に熱湯とボタンを入れ、水溶液を点滴のように垂らしながら、約1時間回転させる



⑦ロウつけ
伊保田ロウを付着させたモミや小麦などを、ボタンと一緒に「モミ化車」でさらに1時間程度回転させる



⑧選別



⑨完成



白蝶貝



海のない奈良県がトップシェアを誇る 貝殻の奥深い光沢が魅力の川西ボタン

左から伴井祐亮さん、比呂志さん、吉岡清訓さん

自然と 暮らそう

vol.173

株式会社トモイ
伴井 比呂志さん 祐亮さん
川西町商工会
吉岡 清訓さん



奈良盆地の真ん中にある磯城郡川西町。総面積5.94kmの小さな町では、明治時代から貝殻を原料にした「貝ボタン」の製造が盛んに行われてきた。現在では全国トップシェアを誇る。

貝ボタンの技術が日本に伝えられたのは明治中期。ドイツから神戸、大阪を経て奈良へと伝わったとされる。当時の川西町は大阪との舟運の集散地として栄え、物流とともに様々な情報交換の場となっていた。また奈良では綿加工業や養蚕業が衰退の一途をたどっており、農閑期の新たな副業として取り入れられたことで生産の中心地になったといわれている。

原料は高瀬貝・黒蝶貝・白蝶貝など。南太平洋の海で採取された生きた貝だけが使用される。削り場でボタンの原型をくり抜いた後、原型を厚みごとにより分け、厚みを調整する。ボタンになった時に美しい層が表れるよう、砥石で貝殻の表裏を削っていく。削られた原型は膨らみや溝などの型を付け、穴をあけた後、

は、昔ながらの技法にレーザー刻印など新しい技術を取り入れ、新商品の開発や顧客ニーズにできるだけ対応しようと試みた。貝だけでなく、木製ボタンや雑貨を開発する事業者もあった。

「しかしファッション業界や問屋への依存度が高く、エンドユーザーへの直接的な販売や、新たな少数オーダーなどに対応できていないのが現状です」と話すのは同町商工会の吉岡清訓さん。元より問屋との取引が主だったため、自社製品を自力で売る環境になく、新たな少数オーダーなどに対応できないことも多いのが現状だ。

「これを解決するには一般の方に向けても販売をし、小さなファンづくり」の精神で需要の拡大を目指していく必要があった」と吉岡さん。商工会から各事業者に協力を求め、まず平成16年からスーパーマーケット・結崎サティでボタンの直売を始めた。同23年からは「川西ボタン倶楽部」と命名しECサイトを開設。積極的な普及活動を行ってきた。当初2業者だった協力企業も現在では8業者に増え、ボタン愛好家を中心に手芸を嗜む人や縫製関係者の利用が増えている。

また近年の「本物志向」や「エシカル消費」も後押しし、貝ボタンが改めて注目されるようになった。貝ボタンが主流のヨーロッパでもアジア産貝ボタンの評価が見直され、日本にも出店する有名ブ

角に丸みを付ける工程、つや出し・磨きの工程を経て完成。最後に人の目で一つひとつ厳しくチェックし、ようやく出荷に至る。

時代を経て分業制から一貫製造へ、オートメーション化も図られるなか、最後はやはり人の目。手間がかかるがこれも品質を守るため。1913年創業、国内シェアトップの「トモイ」3代目・伴井比呂志さんは「天然素材は手を抜こうと思えばいくらでも抜けて利益を出すことはできます。しかし後に信頼を失い、今後の仕事がなくなってしまう。だからこそ品質管理は徹底しています」と話す。

一方で昭和20〜30年代には約400世帯中約300世帯が製造に従事していたと言われるほど盛んだった貝ボタン産業も、現在では20軒に満たない数まで減少。安価で大量生産が可能な合成樹脂製ボタンの台頭に加え、バブル崩壊以後の景気の停滞が廃業を加速させた。

このような厳しい状況下でも各事業者

ランドでも日本をはじめアジアの貝ボタンが使われているのだとか。天然素材だからこそ二つとない輝きと風合いが、洋服に価値をプラスし、小さいながらも魅力あふれる川西ボタン。もしかしたらあなたの洋服にも付いている？



黒蝶貝

オンライン
ショップは
コチラ



KAWANISHI BUTTON CLUB

一般家庭への販路拡大のため、平成16年、結崎サティに直売コーナーを設けたのが始まり。同23年からは「川西ボタン倶楽部」としてECサイトを開設しオンライン販売を開始。現在では町内8業者が製品を提供し、愛好家を中心に一般人や縫製関係者なども利用している。



WEBサイト

続きは電子書籍で見てね



Rakuten ブックス